



☆ 地域の方に学ぶすばらしさ ☆

今シーズン最強寒波が訪れ、学校のプールにも今日は氷が張りました。極寒ではありますが、幸いにも午前中は風がおさまり、穏やかな日差しが入り込む一日でした。そんな中、三年生が地域の社会福祉協議会の方々と七輪での火起こし昔体験を行いました。まずはマッチに火をつけることからのスタートです。聞いてみるとマッチの使い方が初めての子も多く、火がつけられるのか興味津々です。協議会の方からは『チャッカマンなんてないころは、松葉と新聞紙と……』というお話を教えていただき、何もかもが便利に改良されていることを教わりました。火が付くとすぐ炭おこしです。一生懸命にうちわと火吹き竹で風も起こします。『風の通り道を考えるんだよ。』教わった通りにするとあっという間に炭が真っ赤になり大歓声！。正しい火の扱い方を学んだ後は、お楽しみのお餅焼きタイム。さあ、うまく膨らむでしょうか。焼いたアツアツのお餅がとってもおいしそう。自分の手を使ってアナログ的に生活するくらしの楽しさも味わえました。



つづいて、6年生は秦地区歴史遺産保存会の方々をお招きして、秦地区に佇む歴史文化遺産と古代古墳群について学びました。当時、日本でも有数の大きさを誇った秦原廃寺。巨大な山城の築城。さらに昔、3世紀頃には百数十に及ぶ古墳群の存在。知れば知るほどたくさんの疑問も浮かんでくるのがこの学習の面白いところです。『なんでこの場所を選んだの』『何のために作ったの』『どうやって……』次々と質問が出てきます。保存会の方も一生懸命に答えてくださり、充実した時間となりました。秦地区の歴史深さと広大さが、現在も感じられることは本当に素晴らしいです。今日学べたことは、他の誰かに、そして次の世代へずっと語り継いでほしいと願います!!